



「自閉症」を考えてみる。

学校や療育、医療現場においては、あまり使われなくなった用語ですが、「自閉症」と聞くと、みなさんはどんなイメージをもたれますか？「他人との接触を拒否し、自分の殻に閉じこもっている」という昔のままのイメージをもたれる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は、10年ほど前から「自閉症」という言い方ではなく、「自閉症スペクトラム障害」や「自閉スペクトラム症」といった名前に統一されるようになり、[ASD (Autism Spectrum Disorder : ASD) と略されるようになりまし

「学習障害を伴う自閉症」のように、自閉症をもつ方々にも多様性がある、ということが認められるようになってきました。

ASDの特性の核となってくるのは「対人コミュニケーションや対人行動の困難さ」と「限局的、反復的な行動や興味のパターン（こだわり）」の二つになってきます。これらの特性にも表れ方の強さ・弱さがあり、また幼いころから傾向はあるものの、人付き合いや就労など環境が変わったことによつて強く表れるようなこともあります。「うまくいっていた方」でも、生活する環境が変わったり、成長するにつれて要求されるのが難しくなってくることで、徐々に学校生活や就労、友人関係や対人関係の「ハードル」が上がってしまうことがあります。そして、その「ハードル」が上がることによって、心が壊れるくらい苦しくなったり、自分や誰かを傷つけざるを得なくなってしまうたり、元々の特性が強く表れてしまい、生活がスムーズに送れなくなってしまうこともあります。その場合には、「ハードル」をよけたり乗り越えるためにその個人に働きかけたり、「ハードル」を低くしたり、横にどけるために環境に

働きかけけるようなことが大切になってきます。

一方で、これまでの研究や医療技術の進歩をもつてしても「ハードル」が一切なくなり、ASDの特性がきれいに消失する、ということはまだありません。特性がありながらも、いかにその方が自分らしく、また周囲と折り合いをつけながら生活できるか、ということになってくるのです。そのためには、私たち一人ひとりのASDに対するちよつとした理解や関わり方の工夫がポイントになってきます。そして、私たちにとつても大切なよつ「自閉理解」といふことも、周りや社会と折り合いをつけて生活していくためには重要な要素となります。押しつけやレッテル貼りではなく、ちよつとの理解で「ハードル」を少なくし、お互いが過ごしやすい環境を作っていけるようになると思います。

過去の「いっしょらぼ」は町ホームページからご覧になれます。



植物園だより

●軽井沢町の町花 サクラソウ

町内の山野の湿り気のある場所等に生え、北海道（中南部）、本州、九州等に分布する多年草です。植物園では、5月上旬から下旬頃に、紅紫色の花が見頃を迎えます。



サクラソウ 桜草

●ユウスゲの苗配布のお知らせ

とき 5月4日(日・祝)

内容 植物園で育てた播種後5年以上の苗。

入園者1人(入園券1枚)につきユウスゲの苗1株を200名様にプレゼントします(先着順)。



ユウスゲ (アサマキスゲ)

●植物観察会のお知らせ

① 5月11日(日) 春の植物観察3

町植物園が保全する長野県の希少野生植物のひとつで、蟻がその種子を運ぶタデスミレ等、見頃を迎える植物について紹介します。

② 5月25日(日) 春の植物観察4

同じ樹に形の異なる葉をもつヤマグワ、そして軽井沢町の準町花ハナヒョウタンボク等、この季節に見頃を迎える植物について紹介します。

とき 両日とも10時30分から11時30分まで

ところ 軽井沢町植物園

講師 植物園園長

申し込み 5月6日(火)9時より電話、または植物園窓口で申し込みください。

定員 各回30名(先着順)

参加料 入園料のみ

入園料 小学生以上1人1回100円(展示館入館料含む)

※天候状況等により時間の短縮や観察会を中止にする場合があります。

※植物の生育状況等により内容が変更になる場合があります。

【問い合わせ先】
植物園 ☎48-3337